

石神井高齢者相談センター 地域ケア個別会議 取組状況と課題

主催・日時・会場	参加者・数	テーマ	検討事項	検討結果	把握された課題
練馬ゆめの木支所 平成29年7月25日（月） 13:30～15:00 石神井庁舎5階第2会議室	民生委員、認知症家族の会、介護保険事業所、練馬区関係機関、高齢者相談センター（本所・支所） 計 16名	徘徊のある認知症高齢者の見守り	・事例を通じて、徘徊のある認知症高齢者の実情と課題を考える。 ・徘徊時に交通機関等を利用する高齢者への対応について検討する。	・交通機関や商業施設等における認知症や高齢者の徘徊活動への理解がまだまだ不足しているのではないかと、などの意見が出された。 ・認知症高齢者位置情報提供サービスについては、有効であるが、その活用をいかに広げるかや、他のサービスとの連携の必要性について検討できないかなど意見があった。	・公共交通機関等への認知症や高齢者の徘徊行動に関する情報提供の充実を図るとともに、さらなる理解を求めるための啓発活動が必要である。 ・区民や地域団体に対し、認知症への理解や区の認知症対策についてさらなる周知を図るとともに、地域包括支援センターや関係機関が地域に積極的に働きかける必要がある。
高野台支所 平成29年6月14日（水） 10:00～11:30 練馬高野台駅前地域集会所	介護支援専門員、通所介護、地域自主グループ、NPO福祉サロン、高野台敬老館、南田中図書館、高齢者相談センター（本所・支所） 計 14名	認知症になっても地域で安心して暮らし続けることができる地域	・認知症高齢者を支える地域のネットワークの構築、体制づくりについて検討する。 ・認知症であることを隠さず安心して暮らせる地域をつくるために、私たちができることについて検討する。	・認知症については、進行しても一見わかりにくく気がつきにくいこと、生活環境を整えることで認知症の進行を遅らせることができること等を確認した。 ・認知症になっても安心して暮らせる地域をつくるために私たちができることとしては、認知症を知る、認知症の方への対応方法を学ぶ、認知症の理解者を広げるための啓発活動の必要性を再認識した。 ・地域における認知症への理解を促進する手段として、認知症サポーター養成講座の充実や地域で徘徊捜索訓練を実施する等の様々な提案が出された。	・地域で認知症への理解を深めるためには、認知症サポーターの養成を増やすとともに、その修了者が地域で活躍できる場の充実などのさらなる仕組みづくりが必要である。 ・徘徊捜索訓練実施の実施にあたっては、地域の専門職、民生委員の方々などが参加する地域ケア会議等での検討が必要である。
石神井支所 平成29年8月25日（金） 10:00～12:00 石神井庁舎第1・2会議室	民生委員、社会福祉事業協会、有料施設、介護支援専門員、薬局、訪問看護、高齢者相談センター（本所・支所） 計 15名	介護保険サービスのみで生活を支えていくことが難しい、身寄りのない独居高齢者の支援について	・身寄りのない独居高齢者の増加が予想される中で、安全・安心に暮らすための取組みについて検討するとともに、地域課題を抽出する。	・身寄りのない高齢者が、実際にどのような支援が必要なのか、関係者間で確認することができた。 ・親族以外の方が支援する場合、法的に認められない課題も多いため、成年後見制度等の利用の必要性について再認識できた。 ・介護保険サービスでは提供できない支援が必要な場合、担当ケアマネジャーの負担が大きくなるため、近隣住民など身近な方の支援が重要であるとの意見があった。	・今後ますますひとり暮らしや身寄りのない高齢者の増加が見込まれることから、これらの高齢者への支援について、早期に地域包括支援センターと関係機関が連携し対応する必要がある。 ・高齢者を関係機関に繋ぐまでの間に、担当ケアマネジャーの業務外の支援が多くならないよう、地域包括支援センターとしてサポートしていく必要がある。
フローラ石神井支所 平成29年7月20日（木） 南田中団地第二集会所	介護支援専門員、訪問介護、通所介護、南田中第二自治会、民生委員、NPO福祉サロン、コンビニ店長、高齢者相談センター（本所・支所） 計 17名	認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けるために	・個別ケースの事例を通じて、認知症の高齢者が必要な見守りや支援を受けられるよう、地域住民、関係機関等の連携について検討する。	・認知症の症状から、適切な体調管理ができず熱中症のリスクが高いことや、毎朝何回も行きつけのお店の開店を確認しに行くなど、日常生活上の支障が確認された。 ・コンビニ店からの話として、お客様の家族から本人が認知症であるとの話を受けたり、コンビニ店でも認知症についての研修を行なっているなどの取り組みが紹介された。 ・認知症について、外部に知られたいと拒否的な家族の話や、自ら臓器移植カードに記載した例なども報告された。	・認知症高齢者への支援として、介護保険サービスの他に、地域の社会資源を活用して本人の見守りにつなげていくことが必要である。 ・認知症を隠して外部には知らせないようにするケースがあるとされるため、そのようなケースを把握するため、地域の見守りネットワークの充実が必要である。
第二光陽苑支所 平成29年5月30日（火） 14:00～16:00 石神井台みどり地域集会所	民生委員、介護支援専門員、あんしんネット福祉整理、中村橋福祉ケアセンター、福祉用具、通所リハビリテーション、訪問看護、高齢者相談センター（本所・支所） 計 14名	・高次脳機能障害に伴うコミュニケーション不良の本人、ご家族に対して必要な支援について考える	・高次脳機能障害の事例を通して、本人の役割の獲得や、家族に対して障害に関する意識付けのための社会資源などについて検討する。	・高次脳機能障害を持つ人の家族会などは数が少ないのが現状であるが、このような場所があっても障害や体力を理由に辿り着けない人も多いのではなかと意見があった。 ・失語症はリハビリに時間がかかるため、PTによる機能訓練やOTによる機能評価、利き手交換など療法によって支援を行っていくべきとの意見が出された。 ・障害を持つ方にとって、通常の日常生活を過ごすこと自体が大きなりハビリの一環になるとの意見もあった。	・介護や障害サービス利用や家族会への参加など、利用の意思はあるが歩行困難などを理由にその場へ行けない人たちのために、移動の手段の確保が必要である。 ・脳梗塞発症後、医療機関から自宅に戻るにあたり、地域での障害施策とマッチングを行うことが必要である。

<p>関町支所 平成29年8月8日（火） 10：00～11：30 関町特別養護老人ホーム職員食堂</p>	<p>介護支援専門員、福祉事務所、保健相談所、定期巡回随時対応型訪問介護看護、高齢者相談センター（本所・支所） 計 10名</p>	<p>近隣からの苦情が続いた高齢者とその家族の関係に関する今後の支援について</p>	<p>・関係者間で、事例の家族間に起こっている課題についての情報共有を図る。 ・高齢者とその家族への、具体的な支援方法や支援者の役割分担について検討する。</p>	<p>・精神疾患が疑われる方の症状や見立てについて、精神保健福祉士から専門的な意見が出され、関係者間で情報共有ができた。 ・支援に関する関係者間の役割分担や対象者（親子、近隣住民など）へのアプローチの方法について検討を行った。 ・近隣住民からの苦情相談の窓口について、関係者間で連携しながら対応することを確認した。</p>	<p>・近隣住民からの高齢者やその家族に対する苦情については、地域包括支援センターをはじめ、関係機関が連携して適切に対応する必要がある。 ・要介護高齢者には介護等の必要なサービス利用への支援を行うとともに、養護者であるご家族に対しては、養護者支援の観点から支援を行う必要がある。</p>
<p>上石神井支所 平成29年8月23日（水） 14：00～15：30 上石神井地区地域集会所</p>	<p>民生委員、小規模多機能型居宅介護・グループホーム、クリニック相談員、高齢者相談センター（本所・支所） 計 13名</p>	<p>家族の介護が難しく病院未受診の独居高齢者への関わり方を考える</p>	<p>・病院未受診の方や独居高齢者へのアプローチ方法について意見交換し、地域での関わり方、地域課題について検討する。</p>	<p>・病院未受診の方へのアプローチについては、本人に対し受診の必要性や早期発見の大切さ等を伝え、継続的に関わり続けることが重要であるとの意見があった。 ・高齢者は助けを借りたいと言ったことが少ないため、根気強い働きかけが必要との意見があった。</p>	<p>・介護サービス事業所や地域の民生委員の方など関係機関の協力を得ながら、地域包括支援センターと地域が連携し高齢者を支えるネットワークの充実が必要である。 ・「認知症はおたがいさまマップ」等の社会資源マップの作成を進めるとともに、それらの活用を図る必要がある。</p>